

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へ。そして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2017年11月1日 第83号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/>

オープンキャンパス

オープンキャンパス実施報告

准教授 佐々木 実

(入試委員長)

8月5日、6日とオープンキャンパスが開催された。台風の接近も懸念される強い風のなか、2日間で計981名が参加し、過去最高の参加者数となった。

当日は放送部の進行により、川波学長、高橋学部長、柳キャリア委員長、入試委員長、小野学友会企画広報局長による全体説明に続き、各学科案内と桐原、村田、森(邦)、柳、外戸保、山本先生による模擬講義が行われた。続いて、白川、秋山、高路先生による語学体験と、加来入試副委員長による小論文対策講座が開かれた。この講座は、高校生に加えて、保護者の方々も熱心に受講する人気講座として定着してきている。また各種の個別相談ブースも設置され、多くの参加者でにぎわっていた。

一方、多くの在学生在が積極的に参加していることも本学のオープンキャンパスの特徴となっている。「市大生と語ろう」のコーナーでは自身の受験体験や学生生活を話し、「学内ツアー」では学内一周ツアー、サークルツアー、研究室・本館ツアーを実施。さらに各サークルによる学生イベントも実施されていた。はつらつとした在学生の姿は、高校生にとっては何年後かの自分の姿と重なって、保護者にとっては何年後かの子供の姿と重なって、強く印象付けられたのではないだろうか。

最後に、暑い中、協力していただいた教職員、在学生の皆さんにこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。



オープンキャンパスを終えて

生協学生委員会委員長 経済学科2年 中村 果樹

(佐賀県立佐賀北高等学校出身)

私たち生協学生委員は、「組合員の生活をより良くする」という想いの下活動している組織です。オープンキャンパスでは多くの(未来の生協の組合員かもしれない)高校生が安心して下関市立大学を受験し、合格の際には安心して大学生活の準備ができるように、と努力してきました。



今回のオープンキャンパスでは、多くの参加者でキャンパス内がとても賑わっていたように感じます。その中で参加された方の質問に笑顔で受け答えする1・2年生の姿が印象的でした。また、自分で考えて必要なところを手伝ったり、こうした方がいいのでは、と提案してくれる1年生を見て、とても頼もしく感じたことを覚えています。このオープンキャンパスは、学生委員が入れ替わって初めての大きな行事で、私も1・2年生も緊張していたと思います。しかしこういった努力で、現在大学進学を目指している参加者の皆さんが、少しでも大学生活への期待を膨らませることができたら、本当に嬉しいです。毎回の反省会でも、学生委員が自分自身の成長と、参加者の皆さんが楽しんでくださったことを実感してくれているようでした。

オープンキャンパスは大学の行事の運営というだけでなく、多



くの方のご助力で私たち自身が成長できる良い機会です。この経験を大事にして、今後の活動もみんなで頑張っていこうと思います。

就職支援

就職活動の心構え

教授 柳 純
(キャリア委員会委員長)



近年、「超売り手市場」と叫ばれているように、企業等における求人数が増加傾向(有効求人倍率の上昇)にあります。それは企業等の採用意欲として現れているようです。

さて、2016年度の本学学生の就職決定率は99.8%となり、昨年の99.1%からさらに上昇しました(2017年5月1日現在)。このような高い就職率は、今や大学における1つの評価指標となっていますが、日々の学生の皆さんの就職活動の成果であります。

本学では、キャリアセンターを中心に「キャリア教育」を推進しており、学生の皆さんの4年間を体系的に「キャリアサポート」できる体制を整えています。例えば、就職相談から始まり、エントリーシートの添削指導、就職に向けたスキルアップとしての面接訓練など多岐にわたります。

3年生の学生の皆さんにおいては、自らの就職先や進路先をこの先約半年から1年で選択・決定しなければなりません。キャリア形成は生涯を通じて行われるものですから、将来を見据えて現時点で「何をすべきか」、「何ができるのか」をしっかりと考えて、就職活動に臨んでいただきたいと思います。

株式会社伊予銀行に内定

公共マネジメント学科4年 武田 浩一
(愛媛県立今治北高等学校出身)

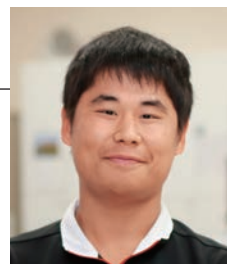


私は、就職活動をして本当に良かったと思います。これまでは高校、大学となんとなく進学してきました。しかし就職活動を通じて、初めて自分と真剣に向き合い、「将来何がしたいか」「どう生きていきたいか」ということを考えるようになりました。これまで学生として過ごした時間は長かったですが、社会人として働く時間はもっと長いものです。それらを意識するようになってからはとにかくインターンシップや説明会・イベントに多く参加し、後から後悔することのないよう行動することを心がけていました。

「インターンシップに参加したほうがいいですか?」「筆記試験の対策はしたほうがいいですか?」といった質問に対する答えは、「後悔すると思うならやっておくべきだ」です。早くから行動すれば、それだけ多くの情報が得られます。自身の将来を決めるかもしれないこの時期・時間を大切に、10年後、20年後にどんな自分になっていたか考えながら就活に取り組んでみてください。そうすれば、最後に最良の選択をすることが出来ると思います。

西日本高速道路株式会社に内定

経済学科4年 二宮 遼太郎
(愛媛県立宇和高等学校出身)



私は高校卒業時、早く大学を卒業し社会に出たいと思っていました。しかし、就職活動となると右も左もわからず、自分に自信が持てませんでした。そこで私は、積極的に説明会に参加し、自らの足で生の情報を得ることを心がけました。連日の説明会で体力的に大変厳しいものがありましたが、就活サイトにはない社員の方の生の声や、就活生との出会いによって自身を客観的に見つめ直すことが出来ました。そして幸運なことに本学卒業の人事の方にお会いし、面接のイロハを教えていただいたことによって、自信をもって面接に臨めるようになりました。これから就職活動をする皆さんも、説明会は多くの情報や出会いを提供してくれる場所なので、時間や労力を惜しまずに積極的に参加してほしいと思います。

就職活動は多くの人を通る道です。そのためどうしても義務感にかられて取り組んでしまいがちですが、少しでもいいので就職活動を自己成長の機会と捉え、気持ちに余裕ができると思います。最後になりますが、皆さんの就職活動が実りあるものとなることを期待しています。

日本通運株式会社に内定

国際商学科4年 城野 友希
(長崎県立長崎北高等学校出身)



私が日本通運株式会社で働きたいと思ったのは、大学3年の夏にインターンシップでシンガポールに行ったことがきっかけでした。中学生の頃から海外で働きたいという思いがあり、それが実現可能なことや、様々な業種のサプライチェーンに無くてはならない物流業の面白さを実感しました。そして、3月に就職活動が本格的にスタートすると、合同説明会や個別説明会、セミナー、社員面談、拠点見学に参加し、どういう仕事をするのか、どういう人材を求めているのかという情報を集めました。その内容を利用して、エントリーシートや面接でアピールすべきことを考え抜きました。

就職活動で大切なのは、志望企業の開催するイベントにとにかく参加して、「自分と企業をすり合わせて、それを伝えること」だと思います。私の場合は、国際物流コースを選択したので、自己PRでは海外に渡航した経験や国際協力サークル活動のエピソードを使って、チャレンジ精神や行動力、積極性をアピールしました。

就職活動は想像しているよりも、辛くないと思います。楽しんで頑張ってください。

就職支援

多様化するインターンシップ

准教授 秋山 淳

(キャリア副委員長)



昨年に続いて民間企業の新卒採用予定者数は昨年度より増える見込みで、就職状況は売り手市場と言えるでしょう。このような状況下、インターンシップを開催する企業の数も増加する傾向にあり、企業としてもインターンシップを通して会社に合う優秀な学生の獲得を図っております。

本学でも大学主催のインターンシップに多数の学生が参加しており、今年度は全体として76の企業・団体に115名の学生を派遣することができました。学生の就業力に対する意識の高まりと、関係各位の協力を得たおかげで、派遣企業・団体数、派遣学生数ともに最も多い数となりました。海外でのインターンシップとしては中国(青島)へ5名、シンガポールへ14名、韓国(釜山)へ6名の学生を派遣しました。その他にも、学生自らが就職情報サイトを利用して、インターンシップに参加しています。また、1dayの講座形式のインターンシップも増加傾向にあり、その開催時期や形式は年々多様化しております。

本学としては、変わり続ける就職活動に対応し、インターンシップの更なる充実・質的改善を行っていきたいと考えています。

宮崎県庁のインターンシップを体験して

経済学科3年 永田 晃己

(宮崎県立延岡高等学校出身)

私は宮崎県庁総合政策部中山間・地域政策課のインターンシップに5日間参加しました。今回私がインターンシップに参加した目的は、将来地元で公務員として地域に貢献したいという思いがあり、県庁で行われている業務内容や仕事の雰囲気を実際に体験して知ることで、公務員についての理解を深めることでした。

県庁での業務はデスクワーク中心のイメージを持っていましたが、中山間・地域政策課での業務はデスクワークだけでなく地域政策に携わる現場の方へお話を伺いに行くことも多々あることを知ることができました。また、同行させていただき、様々なお話を伺う中で公務員は広い視野を持つことが重要であることがわかりました。

今回のインターンシップでは、職員の方々だけでなく庁外でもお話を伺う機会が多くありました。県庁でどのような業務が行われているのか詳しく学ぶことができただけでなく、自分が将来公務員としてどのような業務に携わりたいのか明確にすることができました。自分の意識を変えるきっかけにもなり貴重な経験となりました。



トラスコ中山株式会社のインターンシップを体験して

経済学科3年 木多見 直也

(兵庫県立福崎高等学校出身)

今回私は、夏期休暇を利用し、トラスコ中山株式会社のインターンシップに参加しました。私がこのインターンシップに参加した目的は、学生生活の中で目にするできない専門商社の業務内容を理解し、今の私に何が不足しているのかを知ることでした。5日間のインターンシップを通して、少しではありますが、専門商社に対する理解を深めることができたのではないかと感じています。私がかんがえていた専門商社は、お客様である小売店に対して商品を紹介するだけといったものでした。しかし、営業に同行することにより、実際には、営業の方が小売店の方と同じ目線に立ち、一緒になって考えていることがわかりました。これを積み重ねていくことにより、お客様との間で信頼関係を築き、次の仕事に繋がっていくと知り、営業職に対する興味が一層深まりました。

また、今回のインターンシップに参加したことにより、私には何が不足していて、何に優位性があるのかがわかりました。残りの学生生活では、不足している部分は改善し、優位な部分は伸ばしたいと思います。



シンガポールでのインターンシップを体験して

経済学科3年 前原 和樹

(岡山県立倉敷南高等学校出身)

私がシンガポールでのインターンシップに応募した理由は、将来どのように働きたいのかという考えを強固にする為です。重工業メーカーや物流など、消費者の目線では、あまり知る事の出来ない企業の方の生の声を伺い、その上で自分の将来について再考しようと思いました。お話を伺うという事に関しては、企業の説明会でも可能です。しかし、じっくりと多種多様な企業の、特に海外に駐在している方のお話を伺える機会は他にないと思いました。

今回は6日間で9社を訪問しました。実際の仕事に同行させて頂いたり、飲み会というカジュアルな場で話す機会を頂いたり、大変貴重な経験の中で多くの事を学ぶ事が出来ました。その中でも私が最も重要だと思ったのは、グローバル化に置いて行かれない人間になる事の大切さです。自分の想像していた以上にグローバル化は進んでおり、日本企業で働いていても、いつ海外で働くことになるのか分からないと感じました。

今後は、海外でも活躍できるスキルを身につけていきたいです。また、日頃から海外へ目を向ける事も重要だと思いました。



国際交流

留学による成果(アメリカへ留学)

国際商学科4年 野末 建

(浜松学院高等学校出身)

私はアメリカのカリフォルニア州に10か月間留学しました。私が留学によって得た最大の成果は「英語学習のモチベーションアップ」です。留学以前は、日本では外国人と英語でコミュニケーションを取る機会が少ないことから英語学習のモチベーションを感じられずにいました。しかし、留学がそんな自分を変えてくれました。私は留学中に一人の男性と出会い、友達になりました。彼は私の留学生生活を最も支えてくれた親友で、彼とは留学が終了した現在も連絡を取り合っています。留学当初の私のスピーキング能力は酷いものでしたが、彼は嫌な顔を一切することなく、私の拙い英語を懸命に理解してくれようとしていました。私は彼ともっと親しくなりたい、彼と様々な話がしたいと思い、必死に勉強しました。猛勉強の末、私の会話レベルは以前と比べて遥かに向上しました。また、留学開始から半年でTOEIC790点を獲得することができました。留学生活で英語学習の意義を見出し、そこで身につけた学習習慣が今でも染みついています。留学によって得た成果は、私の一生の財産となり、高価な留学費用に値するものであったと自信を持って言うことができます。しかし、留学は単なるきっかけ、始まりに過ぎません。今後も目的意識を持って勉強を継続していき、世界で活躍することができる人間を目指します。



多文化主義のカナダへの留学体験

国際商学科4年 古川 由

(鹿児島県立出水高等学校出身)

私は8か月間カナダのアルゴマ大学へ派遣留学をしました。カナダは多文化主義という名のとおり、多くの移民や難民を受け入れています。そのため、街のあらゆるところに、人種や言語、宗教の異なる人々で構成されたコミュニティが存在しています。カナダに住むほとんどの人々はそれを理解し、カナダの特徴として受け入れています。そんなカナダへ留学が決まった時は、期待と共に大きな不安がありましたが、日本では体験できない特別な体験をすることができ、自分自身を大きく成長させる機会になりました。大学では、たくさんの外国人留学生とともに学習する事で、しっかりと自分の意見を持つ事、そしてそれを表現する事の大切さを学び、ホームステイでは、カナダならではの食、宗教、文化を身をもって感じる事ができました。なかでもシリア難民の英語学習のボランティアに参加した事は一番貴重な体験です。お互い言語も文化も全く異なるため不安もありましたが、その違いを受け入れ合う事で、彼らと触れ合い、手助けをすることができました。このようにカナダでの生活で私は新しい事に挑戦し、その結果は全て私の考え方を変え、成長させてくれました。



「話す意欲を持つこと」(中国へ留学)

国際商学科4年 荒毛 知治

(熊本県立人吉高等学校出身)

私は約5か月間青島大学に留学をしました。短い期間ですが、楽しさと苦難が入り混じる充実した毎日を過ごしました。そんな留学生活で覚えた教訓があります。自己主張をしない人はその場にいる意味がないということです。

授業で発言することは大事です。黙ったまま過ごすというのは、先生から見ると学ぶ気がないと判断され厳しい注意を受けます。留学が始まった頃の私がそうでした。決して不真面目な態度をとっているわけではなく、伝えることに自信がなく話す勇気がでなかったのです。自分に話を振ってくださるのに、その機会を活かせない時ほど失礼で悔しいものはありません。そんな積極的に発言をしない私に、先生は何度もチャンスをくれました。それが本当に嬉しくて、次はみんなを笑わせるぞ!なんていう目標を立て、とにかく発言する努力をしました。先生もクラスメイトも真剣に話を聞こうとしてくれるおかげで、自然と発言することに少し躊躇しない自分に変っていききました。

話そうという気持ちは人間関係を豊かにし、行動範囲を広くしてくれました。今後もずっと大切に持ち続けていきたいです。



オーストラリア研修での出会い

国際商学科1年 藤岡 明日香

(福岡県立八幡高等学校出身)

私は高校の時から英語に興味があり、入学後にこのオーストラリア外国研修を知り今回参加しました。ここではたくさんの人と出会い、刺激を受けました。世界各国からの留学生との異文化交流は貴重な体験でした。日本を別の角度から見ることができ、改めて日本のことをたくさん考えさせられました。出身や年齢を問わずあらゆる人に会えるのは留学の大きな強みだと思います。彼らと過ごしていく中で得たものは「積極性」です。授業中の先生の質問に対し自分から答えていかないと、他の留学生がどんどん発言をするので自分の意見を言う機会がなくなる、ということが何度もありました。自分の学びたいことには貪欲でいよう、と強く思いました。ホームステイ先では他の中国人留学生もいました。夕食の時に日本、オーストラリア、中国の三ヶ国の文化の違いを話す時間は楽しかったです。

これからの大学生活にはまだまだたくさんの時間があるので、ここで学んだことを生かして、これからもっといろいろな興味を持ったことに積極的に取り組んでいこうと思います。



国際交流

外国研修に参加して(中国)

公共マネジメント学科1年 岸本 花音

(愛媛県立今治西高等学校出身)

今回の外国研修では、月曜から金曜までの午前中に、中国に留学している多国籍なクラスメイトと合同で授業を受けました。午後は基本的に自由時間で、カンフーや観光を楽しみました。週末には嶗山(ろうざん)という青島郊外にある山に登りました。1時間ほど掛けて頂上に辿り着いた時に見た景色は圧巻で、疲れが吹き飛びました。また、青島大学の日本語学科生との交流会があり、そこで仲良くなった現地学生に案内してもらいながら、青島の様々な観光地を巡ったりもしました。最初はどうなるだろうと気を揉んでいましたが、様々な人と出会うことができ、とても充実した時間が過ごせました。

また、今回の留学で、毎日中国語に触れる楽しさや、それに伴うスキルアップを実感できました。私が所属したクラスは、アメリカや韓国、ヨーロッパなど、様々な国から青島大学に留学している生徒たちが在籍しているクラスで、コミュニケーションは主に中国語でとりました。もっと中国語を勉強しなければと、自分の力なさに悔しい思いもしましたが、同時に、公用語の違う様々な国の人達と、日本語以外の言語で意思疎通できる事がどんなに素晴らしいことか、身を以て知ることができました。この経験を、これからの言語学習のモチベーションに変えて、一層努力していきたいです。



韓国語研修を終えて

国際商学科2年 永中 莉緒

(広島県立五日市高等学校出身)

私は、8月6日から19日までの2週間、韓国の釜山にある東義大学校で外国研修に参加しました。私は韓国の音楽やドラマ、歴史に興味があり、第一外国語で朝鮮語を履修しています。1年と数か月の間学習してきた韓国語の実力を試す良い機会になりました。授業は3つのクラスに分かれるので自分のレベルにあった授業を受けることができました。90分の授業を2回受け、午後に復習の時間が設けられていました。日本の学生一人につき、東義大学校の学生チューターさんが一人ついてくれ、授業後の復習の手伝いをしてくれたり、街に出て一緒にショッピングや食事を楽しみました。私のチューターは日本語がとても上手な方だったので、たくさん韓国語を教えてくださいました。毎日韓国語が飛び交う環境にいたので、聞き取りや話す力がついたと思います。韓国人の友達が増え、現地の方々の暖かさや異なった文化に触れることができました。2週間では足りないくらい毎日充実していました。この研修は一生忘れられない思い出になったので、参加して良かったと思います。



第1回日本文化の神髄を知ろう!!に参加して

蔡 洪官

(東義大学校交換留学生)

私は経験することで物事の本当の価値を理解できると思います。

畳作りに参加するまでは、畳について何も知らなかっただけでなく興味もありませんでした。私が唯一知っているのは、畳は日本の伝統的な家庭に敷いているものであり、畳、イコール日本ということです。

このプログラムで畳の説明をしていただきましたが、見たり触ったりするほうが興味深かったです。説明で印象に残ったのは、畳の材料であるいぐさが九州の熊本県で主に生産されていることです。しかし現在では、畳産業が中国の安い畳により衰退しているようです。そのため、このプログラムで畳のことを少しでも共有しようと思いました。

説明が終わり、すぐ畳作りに取り組みました。好きなヘリを選び作りました。作るのは30分かかりませんでした。ミニ畳は成人である私が座るには狭かったので、貝と人工の葉を畳に張り付けて、額として使っています。この文章を書いている今も、私の部屋の隅っこで輝いています。私はこのプログラムに参加しなかったら、畳が私の部屋にある可能性がないと思います。様々なことに参加することで今までと違う道が生まれるものと私は信じています。



第2回日本にいながら世界を知ろう!!で発表して

国際商学科2年 中村 令和

私はインドネシアについての発表を通じて、インドネシアのことを少しでも知ってもらえて嬉しいと思いました。インドネシアは私にとって慣れ親しんだ国であり、日本とは全く異なる文化や習慣を持っています。実際にインドネシアで暮らし、育ったことのある私からみたインドネシアの魅力を伝えることが出来て、良かったと思っています。私の今までの経験上、インドネシアと聞いてどんな国か知らない日本人が多くいるように思います。逆に、インドネシアの人々は日本と聞いただけで、侍、忍者、アニメ、富士山など、多くの日本に関する単語が出てきます。私はインドネシアの人々がこんなにも日本について知っているのに、日本人が全く知らないのは、凄く勿体ないことだと思いました。そして、まずは身近なこの大学でインドネシアについて話し、興味を持ってもらえたらいいなと思いました。今回の発表では、インドネシアの食や季節、伝統の踊り、私の体験談などについてお話ししました。また、来てくださった皆さんにインドネシアのお菓子を紹介したり、伝統衣装の試着をしたりする機会を設けることが出来、皆さんと良い思い出が出来ました。



下関市立大学 News & Topics

大学祭を終えて

第56回大学祭実行委員会委員長 経済学科3年 橋本 春道
(鳥取県立八頭高等学校出身)

最初に第56回馬関祭を開催できましたことを、ご協賛いただいた企業、団体の皆様、日頃よりご指導を賜った教職員の皆様、そしてなにより、ご支援いただいた地域の皆様にご感謝申し上げます。大学祭実行委員会一同大変嬉しく、また、感謝の念でいっぱいです。馬関祭の成功は、多くの方々のご理解とご協力がなくては成し得なかったと感じています。

今年の馬関祭は10月7日から10月9日までの期間で開催しました。3日間とも天候に恵まれ、新企画であるお化け屋敷や緑日屋台ではたくさんの子供たちが楽しんでいる姿が見受けられ、アーティストライブやお笑いライブも大いに盛り上がり、3日間を通して例年にないほどたくさんのお客様にお越しいただきました。お化け屋敷や緑日屋台は初めての試みで、当日まで不安もありましたが、無事に成功することができ、今年のテーマである「Action」を起こすことができました。

繰り返しのようになりますが、ご支援いただきました皆様には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



春学期卒業式

9月30日(土)、平成29年度春学期卒業証書・学位記授与式が挙行され、今年度は、経済学科6名、国際商学科8名の計14名が本学を巣立っていきました。学長は告辞の中で、「『卒業』という成果が、多くの方々のお陰があったからこそである、ということをお忘れではありません。解決が難しい問題も、これまでの経験が解決の基礎になります。家族から自立し、人生を切り開いていってください。」と述べられました。卒業生の1人は、「3月に卒業できなかったのは残念ですが、これからは社会で頑張っていきたい。」と述べていました。本学は、全国各地あるいは世界で活躍する皆さんを、下関から応援しています。



防災訓練

9月22日(金)に、学生、教職員および大学町地域住民の約200名が参加のもと、防災訓練を実施しました。また大学と大学町自治連合会及び大学町地区社会福祉協議会との間に結ばれている防災協定に基づいて、避難所開設や避難者の受け入れの訓練も併せて実施しました。

訓練終了後は、下関市北消防署及び市役所防災安全課の職員より、訓練の講評と共に、各種災害発生時の対処と行動の在り方の説明をうけました。



エコキャンパス推進委員会活動報告

5月31日(水)、環境みらい館において平成28年度緑のカーテンコンテスト表彰式が行われ、本学が優秀賞に選ばれました。緑のカーテンコンテストは下関市地球温暖化対策地域協議会の事業で、市内の事業者等が応募して行われました。植え付け作業に参加した学生に受賞したことを伝えると、「過去にも植え付け作業に参加しましたが、今回の受賞には驚きました」などの感想がありました。エコキャンパス推進委員会は、これからも環境保全活動を行っていきます。



『世界の厨房から』を終えて

公共マネジメント学科3年 上船 希
(鹿児島県立鹿屋高等学校出身)

7月3日(月)に、『世界の厨房から』を開催しました。このイベントは国際交流会ともだちのメンバーと各国の留学生と一緒に母国の料理を作り、来場者に振る舞うというもので、今回は中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム、トルコ、ドイツの7か国の留学生に協力してもらいました。来場の皆さんに「どの国の料理もおいしかった」と言っていただき、今まで準備をしてきてよかったなと思いました。また、当日は日本舞踊サークルさくら会の皆さんが日本舞踊を披露してください、日本の伝統文化に直接触れることのできるいい機会でした。

このイベントは、料理を通して世界の文化に触れようという意図で毎年行っています。部長という立場でこのようなイベントを主催でき、幸運に思います。



地域交流

地域インターンシップに参加して

経済学科3年 岡 将樹

(早稲高等学校出身)

地域インターンシップ(角島を中心とした豊北地区観光動向実態調査)に参加しました。関東、関西からの観光客が予想以上に多く、角島の景観を鑑賞したりお子さんとビーチで遊ぶことを目的に来られていました。角島大橋からの景観は透き通った海がとても綺麗で多くの人が満足していました。年配の方からは、様々な料理店や休憩スペースの拡大といった施設の充実が望まれていましたし、喫煙者のために喫煙所を設けた方がいいという意見もありました。また、リピーターの観光客もいたので飽きさせないために定期的にイベントなどを開催するといいいのではないかと思います。

全体的に観光客の満足度は高く、もっと豊北地区の観光名所を全国に広めていく必要があると思います。海外からの観光客やツアーでの観光客も多く、宿泊で来られる人はホテルでお風呂に入られる方が多かったのですが、豊北の温泉に入ってもらえる工夫も欲しいと感じました。今回は貴重な体験をさせていただきました。



「アニサキスなど食中毒を正しく理解する」

教授 濱田 英嗣

(附属地域共創センター長)

テレビで活躍している有名タレント達が「刺身を食べて“アニサキス”による食中毒”にやられ、大変だった」、と面白おかしく話題にしたことでアニサキスが注目され、その風評被害によって全国的に刺身消費が減少し続けている。

科学的根拠のない風評で消費が左右されるのではなく、消費者がアニサキスなどの食中毒を正しく理解し、消費者各位が自身の判断で食行動を選択するという狙いでテーマ講座(7月5日(水)開催)を企画した。緊急に設営したテーマ講座であったが、受講者数約80名、取材テレビ局5局と関心の高さが示され、下関市保健所にも講演者を出して頂いたこともあり、講座終了後のテーマ講座アンケートでも「参加してよかった」という受講者の感想を頂けた。

地域共創センターが果たすべき地域貢献は多種多様で、アーカイブのように地道に取り組むものもあるが、市民の好奇心や知的刺激を誘発すべく、社会的に耳目を集めている問題や課題についてタイムリーに取り上げることを今後とも心がけたい。



関門地域共同研究会・成果報告会レポート

准教授 佐藤 隆

(附属地域共創センター地域調査研究部門長)

この成果報告会は学術的研究成果を踏まえて、今後の両市関門地域の政策推進に役立つことを目的とした報告会である。7月13日(木)西日本総合展示場において、下関市立大学と北九州市立大学の関係者、下関市と北九州市の市役所職員あわせて70人余りが参加し、大変盛況であった。

今年度の研究テーマは「関門地域におけるインバウンド政策の推進—北九州空港、下関港を事例として」と「子供の貧困対策に関する財政支援と教育保障」に関してであった(本学からは難波教授が「那覇市における子供の貧困対策に関する考察—国・県からの財政支援と地域的なサービス」を発表された)。第2部はシンポジウム「地域防災と復興」に関してで、大変興味深い討論が行われた(本学からは濱田教授・地域共創センター長が公助の観点から東日本大震災からの水産業の復興を事例として話をされた)。要点としては、地域防災活動を学生などの若い人にも興味を持ってもらうための仕組みづくりや、自分たちの居住地域のリスクを把握し、実際に災害が起きたときにどう対応したらよいかを事前に住民の間で話し合っておくこと(共助の仕組みづくり)が重要であるとのことであった。特に学生の防災意識を高めるために(学生対象の)防災講座を開催するなど、学生の積極的な取り組みが強く関心を引いた。

私のゼミ

連載企画

主体性と熱意から生まれる価値

経済学科4年 仲真 理菜

(沖縄県立球陽高等学校出身)

嶋田ゼミでは、財政・地方財政を中心とし、税制や福祉といった幅広いテーマを研究しています。嶋田ゼミは学生の主体性を重視するため、私たちは自由に研究することができます。その反面、その自由過ぎる環境には正直戸惑うこともありました。各々の主体性やメンバー間の連帯が必要になるからです。ゼミでは、常に課題を意識しつつ主体的に行動することの大切さと、熱意を注ぎ労力を費やすことで生まれる価値に気づくことができました。

主な活動としては、3年次に行う現地調査と合同ゼミがあります。私たちは周防大島町を分析対象とし、様々な数値を収集・加工した上で現地調査を行いました。感覚的には知っていた自然減、社会減、地方の財政問題を数値にすることにより可視化し、そこから生まれる疑問を現地調査で解消するといった作業は非常に大変でした。合同ゼミでは、その成果を他大学の学生の前で報告します。4年次には、各々興味のある研究テーマで卒業論文を執筆します。私は地元にある米軍基地に関連する補助金とそれを利用した復興事業をテーマに研究しています。現在、二つの市町村の復興事業、財政状況等を比較するなど、論文完成を目指して作業を続けています。



■平成29年度 春季大会等成績

サークル名	イベント名	出場種目	成績	個人名
準硬式野球部	中国地区準硬式野球春季1部リーグ戦		3位	
男子バレーボール部	中国大学バレーボール戦春季大会		2位(1部昇格)	
女子バスケットボール部	SUリーグ		優勝	
ソフトテニス部	春季中国リーグ	男子団体戦	3部1位(2部昇格)	
		ダブルス	ベスト16(インカレ出場決定)	松岡真穂
		ダブルス	ベスト16(インカレ出場決定)	高森詩織
	山口県学生ソフトテニス選手権大会	男子団体 Aチーム	優勝	
		個人戦	優勝	新郷 武
		個人戦	優勝	山本直輝
		女子団体 Aチーム	準優勝	
バドミントン部	山口県春季学生バドミントン大会	ダブルス	優勝	石田・櫻山
	第63回北九州・下関地区大学体育大会バドミントン競技	ダブルス	優勝	石田・櫻山
卓球部	第57回全国国公立大学卓球大会	男子団体決勝トーナメント	ベスト16	
	第68回中国学生卓球選手権秋季大会	男子団体	2部3位(2部残留)	
		女子団体	3部3位(2部昇格)	
		男子シングルス	第3回オール西日本大学卓球選手権大会出場	水田敦希
剣道部	下関市体育協会長杯争奪 第57回市内職域・地域対抗剣道選手権大会	女子個人	優勝	原田美那
少林寺拳法部	第52回少林寺拳法中四国学生大会	単独演武 級拳士の部	1位	山元克弥
		立会評価法 男子の部	1位	岡本卓巳
		立会評価法 女子の部	1位	田中真奈美
	第45回山口県少林寺拳法大会	単独演武 一般男子級拳士の部	1位	山元克弥
		組演武 一般女子級拳士の部	1位	安藤・田村
		組演武 一般男子二段の部	1位	大塚・洪原
		団体演武 一般の部	1位	田中・大塚・井倉・岡本・澤・洪原
陸上競技部	第59回下関市陸上競技選手権大会	男子200m	1位	石川順典
		男子400m	1位	西村瀨那
	第63回北九州・下関地区大学体育大会陸上競技大会	男子100m	1位	石川順典
		男子110mH	1位	轟木康陽
		男子走高跳	1位	奥本浩平
		女子400m	1位	枋原かの子
	下関ナイター陸上	男子100m	1位	石川順典

■行事記録(平成29年7月～10月)

7月 1日	コンソーシアム関門 留学生交流会バスツアー	5日	大学コンソーシアム関門共同授業(本学開講分)(～9日)
3日	世界の厨房から	16日	保護者懇談会
5日	市民大学テーマ講座	22日	防災訓練、秋学期履修登録開始
6日	ハラスメント防止啓発講習会(学生対象) (アカデミックリテラシー合同講義)	25日	秋学期授業開始
13日	関門地域共同研究会成果報告会	28日	公立大学中国四国地区協議会ブロック別懇談会
14日	修士論文提出締切	30日	春学期卒業式
25日	大学院中間発表会・修士論文研究発表会	10月 1日	オープンキャンパス
26日	第3回共創サロン	2日	健康診断
27日	FDワークショップ	(～4日、休学・留学していた学生 及び春学期未受診学生対象)	
31日	春学期定期試験(～4日)	7日	大学祭(～9日)
8月 5日	オープンキャンパス(～6日)	10日	大学祭片付け(全学休講) クリーンキャンパスデー
18日	春学期卒業論文提出締切 共同自主研究報告書提出締切	18日	履修登録取消期間(～24日)
9月 2日	大学院入試(一次募集)	26日	後期授業料納入期限
		28日	下関市立大学館資料室開設10周年記念シンポジウム

■今年度の入試スケジュール

	試験日	出願期間
推薦入学 特別選抜 第3年次編入学	平成29年11月18日(土)	(推薦・特別)平成29年11月1日(水)～11月7日(火) (編入学)平成29年10月19日(木)～10月26日(木)
外国人留学生	平成29年12月16日(土)	平成29年11月22日(水)～12月1日(金)
一般選抜	前期日程	平成30年1月22日(月)～1月31日(水)
	公立大学中期日程	

《お知らせ》

一般選抜では、本学のほかに地方試験会場を多数設定しています。前期日程では大阪・広島・福岡、公立大学中期日程では名古屋・大阪・広島・高松・福岡・鹿児島で受験することができます。詳しくは、募集要項をご覧ください。

自著を語る

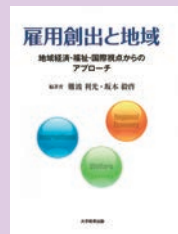
連載企画

雇用創出と地域

～地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ～

下関市立大学教授 難波 利光
(編著者 難波利光・坂本啓 大学教育出版)

本書は、少子高齢化や人口減少社会の中で、一億総活躍社会の実現に向けて地域課題の変化に伴う地域のニーズに合った、地域での雇用・就労のあり方に注目して作成した。構成は、大きく3部構成にし、地域経済・福祉・国際の視点から纏めている。



私の執筆した「住民目線による観光まちづくり-魅力あるまちづくりと起業創出」では、鳥根県宇治温泉の事例をとりあげた。住民が観光協会と一体となり人気商品開発や企業創出、日々ブラッシュアップさせる地域イベントにより観光客の増加を図ることで地域再生を行っている。この取組は、魅力あるまちづくりを行うために歴史的な社会資源を活用する時に、マーケティングサーチを地域住民自らが行うことで成功したといえる。地域住民が、まちの魅力を知っているからこそ気づいたことにすぐ取り組むことが大切である。

本書は、地方創生を行うことを模索している自治体や地域団体にとって参考になる点が多いと思われる。実際にこれから雇用を創出し地域づくりに携わりたいと考えている方に、一歩踏み出すきっかけにして頂けると幸いです。

市民大学
テーマ講座

「確立された地域ブランドの進化に関する諸課題」

下関を代表する下関フグと垢田トマトの事例を念頭に、その課題を論議、展望し、下関フグ及び垢田トマトに関する個別課題を整理するとともに、確立されたブランドの共通課題を明らかにし、進化ブランドのあり方を検討する。

- 平成29年11月11日(土) 13:30～15:45
- 下関市立大学 本館2階I-206教室(下関市大学町二丁目1番1号)

5大学連携

「赤間関」公開講座開講

山口県は全国第4位の竹林面積を有する県であり、下関市内には良質な竹の産地もあります。世界各地には様々な竹楽器がありますが、その中からアンクンという民族楽器を制作し、竹楽器の魅力にせまります。

- ◎演題：竹楽器の魅力～竹楽器制作ワークショップをとおして～
- ◎講師：吉原 達也(下関短期大学保育学科)

- 平成29年11月25日(土) 13:30～15:30
- 下関短期大学 C棟3階ホール(下関市桜山町1-1)
- 後援：下関市、下関市教育委員会